

当院患者様より

ヤマ先生と初めてお会いしたのは、……と言うより、先生の病院に突然、駆込んだのは、昨年8月8日。蒸し暑い夜でした。前日の夕日は我家の愛犬リリーが11歳になたばかりでした。元来、

先生にお世話になってはいなかったのですが、8日夜、急にリリーの容体に異変が起き、先生に無理矢理、診察をお願いした。その時、時刻はすでに夜遅く、10:00近かったのですが、先生は、ドアを開け、しかも、外で私達が到着するのを待っていて下さったので、そして、すぐさま診察台に寝かせたリリーを心臓マッサージ、電気ショックと、さまざまなおことを懸命に施して下さいました。しかし、先生の手当てのせいもなく、リリーは「私の役目はもう終わったのだよ」と言うかのように、あっという間にこの世を去ってしまいました。あまりにも悲しく辛いことでした。突然、小さな命が消えてしまった事実をどう受け留めたらいいのか、この瞬間、ホッカリと穴が抜けてしまったかのように感じました。

しかし、ヤマ先生は、その穴を埋めて下さるかのようにリリーの最後を丁寧に見届けて下さいました。それは何よりもありがたい嬉しいことでした。先生に心から「ありがとうございます……」と、この感謝の気持ちには家族みんな決して忘れることはありません。

あの夜、緊迫した空気の中で、ヤマ先生が、ゆくり、ゆくり、一言、一言おっしゃって下さったことは、私達に何から大きな力と心のやすらぎを与えて下さり、先生の深い愛情を心から感じました。

その後リリーの血が流れる様々の3匹の子供達は、今先生にお世話になってます。スタッフのみなさんはいつも明るく、犬や猫ちゃん達に話しかけ、そして飼主さん達にも和やかに話しかけて下さる光景は、そこに、心のオアシスを感じています。

